

令和6年度若手教員研究助成経費 成果報告書

所属名	総合教育系特別支援教育部門
研究課題名	構音障がい児の発音明瞭度に関する研究 —指導と評価の一体化に関する実践的検討—
研究課題概要	(問題の所在と目的) 現在、小学校での通級による指導を受けている障がい種で、最も在籍数が多いのは発音不明瞭を含む言語障がいである。しかし、小学校・中学校・高等学校の免許状を保有していれば通級指導担当教員になることが可能であり、その他特別の免許状の所持は必要とされていない。したがって、通級指導担当教員の特別支援教育に関する専門性が課題となっている。さらに、言語障がい児への指導の1つである発音・発語指導は深い知識と技術が求められることから、専門性が高い領域とされている。そこで、本研究では構音障がい児の発音明瞭度検査を数回実施し、結果を通級指導担当教員にフィードバックし、指導に役立てる。それらを通して、指導前後の明瞭度の結果を比較検討することで、構音障がい児の発話音声の特徴を解明できるとともに、発音・発語指導及び「指導と評価の一体化」に係る基礎的知見を得ることを目的とした。 (方法) ①対象児:通級指導教室に通学する構音障がい児1名(調査時(2024年度):小学校4年生) ②音声聴取者:構音障がい児が通う通級指導教室の担当教員1名(通級3年目)、対象児と接触機会のない大学生6名 ③音声材料:日本語100音節を組み合わせた単音節リスト ④手続き:録音は7月・9月・12月の3時点で行なった。音声は通級指導教室でマイク(OLYMPUS ME-34)を通して、ICレコーダ(SONY ICD-UX560F)に録音した。聴取実験は9月及び12月の録音の直後に実施した。静かな教室で音声聴取者の面前約1mのスピーカ(Bose SoundLink MiniII)より音声を流し、きこえた通りに記入させた。 ⑤分析方法:音声聴取者ごとに発音明瞭度・母音明瞭度の正答率を算出した。また、録音の3時点で、発音・母音明瞭度、構音点・構音方法別の明瞭度の中央値・最小値・最大値・四分位数を算出し、Wilcoxonの符号付順位検定及びFriedman検定(Bonferroni法)を用いて比較した。 (結果・考察) 対象児の保護者の主訴は「発音が不明瞭、特にサ行とタ行を正確に発音できない」であったため、それを元に指導計画を立案した。なお、指導の流れとして、45分の指導を週2回(発音・発語週1回、学習週1回)実施した。 発音・発語に関する1学期の目標として、「正しく発音できる音を増やす」「生活の中でも正しい発音ができる音を増やす」と設定し、指導内容は、サ行の「シ」以外の単音レベルの構音練習、舌の位置や舌の使い方の違いを知る、家庭と協力することを重心的に行なった。1学期を通して、指導担当教員は、「正発できる音の増加、サ行の自己修正ができるようになった」と評価している。1学期の最後の7月及び2学期の最初の9月に発音明瞭度検査を実施した結果、全体の発音明瞭度に有意差は見られなかった。また、音声聴取者7名中、正答が2名以下(28.6%以下)の構音(直音)として、さ・し・そ(7月)、し・せ・そ・ざ・じ・ぜ・ぞ(9月)と、サ行の発音の難しさが確認された。その結果を踏まえて、2学期も継続的に指導を行なう必要があることを指導担当教員にフィードバックした。 2学期の目標として、「サ行が正しく発音できるようになる」「生活の中でも正しい発音ができる音を増やす」と設定し、指導内容は、サ行の単音・単語レベルの構音練習、舌の位置や息の使い方の違いを知る、家庭と協力することを重点的に行なった。2学期を通して、指導担当教員の評価は、「サ行の正しい構音方法を知ることができるようになった」「本人が意識している時は正しく構音できていることが増えた」であった。2学期の最後の12月に発音明瞭度検査を実施した結果、7月及び9月に比して発音明瞭度が有意に向上した($p<.05$)。また、音声聴取者7名中、正答が2名以下(28.6%以下)の構音(直音)に、清音のサ行はなかったことから、サ行の発音が改善されたことが確認された。ただ、今後はサ行の発音が不明瞭にならないように引き続き留意して指導するとともに、次の段階(明瞭度の低い弾音・濁音等)に指導を進めることになった。 (今後の課題) 今回は学期初めに評価を行い、通級指導担当教員にフィードバックし、発音・発語指導をした上で、学期末に再評価を行なう形であったため、発音・発語指導の各回での指導と評価については検討できなかった。発音のみならず発語面での評価、指導時間が限られる中での指導や通級指導担当教員の専門性・指導の継承の検討も含めて、今後は通級による指導での発音・発語指導の効率的な「指導と評価の一体化」の検討が求められる。
研究課題の構成員	湯浅 哲也

※様式は頁数が増えても差し支えありません。